

学校教育特別委員会報告

委員長 山本 光晴

開催日 24年11月14日

議 題 学校再編について

① 学校再編に対する町長の考え方

教育委員会が掲げた「小学校1校」、「中学校1校」に再編するという基本方針は理解するが、地域の中には未だ東地域に小学校1校を残し、緩やかな再編を求める声が多いと認識していることから、計画を今一度立ち止まり、特に東地域の子育て世代の保護者の意見を再確認したい。

② 現在発注済業務の対応

- ・旧府民牧場既存建物撤去工事は完了させる。(12月25日完了済み)
- ・24年度発注予定の新学校建設予定地の造成工事は当分の間見送る。
- ・新学校の基本・実施設計業務は、方針変更や、設計内容も再検討する可能性もあり、打ち切り、または次年度以降へ繰越措置を講じる。
- ・新中学校の新制服については、開校遅延により業者との調整が必要である。

③ 主な質疑

- ・西地域の方々には、早期に新学校開校の要望もあるが、開校年度はいつになるのか。

⇒(以下町長答弁)1年遅れで、28年度には開校させたい。

- ・東地域の既存の小学校1校を残すといわれているが、多くの問題を含んでおり果たして意見がまとまるのか。

⇒新学校の理念や、東に1校を残した場合の影響も含め、丁寧な説明をすれば結論が出ると思う。

- ・東に残した小学校を、20～30年存続さすのだったら分かるが、3～5年程度しか存続させないのであれば、投資経費の無駄でしかないのでは。

⇒分かっていることや、知りえている情報を全て出して協議したい。

- ・今後、益々児童・生徒数が減少していくことが予想される中で、1小1中は仕方が無いのではないのか。

⇒今の生徒・児童数を見れば、最終的には1小1中は仕方ないと思う。

- ・東地域の保護者に意見聴取したとき、賛否両論で意見が分かれた場合、どう判断されるのか。

⇒児童・生徒数の今後の推移も含め、全部条件提示をすれば一定の方向性が出ると思う、その後は議会や教育委員と協議したい。

- ・学校再編が、本町の活性化やまちづくりに絡み合っていると考えるが。

⇒学校がまちづくりに不可欠な要素があると理解はするが、一からの議論には時期的に難しい。

- ・再編事業には既に、予算額で9.2億、決算額で1.3億執行している。これから見ても基本方針どおり進めるべきでは。

⇒予算執行より、保護者の理解を得ながら進めることの方が重要である。

- ・旧府民牧場跡地に中学校と西地区の小学校が建設されるのならば、今ここで工事を止める必要は無いのではないのか。

⇒やはり心情的に一旦止めて精査したい。

- ・この問題、教育委員会や議会が決定して進捗しているのを変更すれば、今後、町政運営に支障をきたす恐れがあるが、その覚悟はあるのか。

⇒覚悟はある。

最終的に町長は、

- ・中学校は1校に統合、西地区の小学校も統合して、府民牧場跡地に新設をする。
- ・東地域の保護者の意見によっては、将来的には統合を基本としつつ、当分の間、東地域に小学校1校を残す方向で早期に東地域の保護者に説明をするとともに、意思確認をしたい。

ということでありました。

12月定例議会で、本件について多くの議員から一般質問で町長と議論がなされ、最終日に下記のとおり今後のスケジュールが町長から示されました。

- ・25年2月中旬までに、東地域小学校3校区（田尻、歌垣、東郷）の児童・幼児の保護者への説明会と意向調査を行う。
- ・25年2月末までに、従来の基本方針どおり府民牧場跡地に1小1中を再編整備するのか、若しくは東地域に小学校1校を残すかの最終意思決定をする。
- ・25年3月定例議会において、学校再編関連予算を上程する予定である。